

伊豆の踊り子ウォーキング

園田 勝

温泉入浴のゆったりコース10kmか、頑張って歩くふつうコース16kmか、迷っていたが周囲の人達の声で普通コースに決め、一度払った入浴券を払い戻して貰った。40年振りに歩く天城は、八丁池から天城峠・河津七滝めぐり以来であり、今回の旧天城トンネルを通り抜けるのは初めてなので、大変楽しみにしていた。バスは東名高速を走り、一路出発点の二階滝駐車場に向う。車中では指の体操やゲームもなく、金持ちや貧乏人も出なく、チョット淋しいが静かな和んだ乗車時間だった。

予定時間通りに到着、準備体操も完璧に終えていざ登り口へと進む。最初からの山道の登りも、熟年パワーの軽やかな足取りに「ふうふう」、ついて行くのがやっとの状態だった。そんな中、雑木林の中に空缶が捨てられているを見てハイカーのマナーに憤りを覚え、クリーンウォークの大切さを再確認した。そうこうするうちに旧天城トンネルの入り口に辿り着く。「私の名はハナ、咲いた咲いたのハナ・・・」これは松本清張「天城越え」の一節である。旧天城トンネルと言えば、心霊の名所としても有名な場所である。生首が追いかけてきたとか、噂は絶えないと言われている。正式名は天城山隧道（あまぎやま・ずいどう）と言い、天城湯ヶ島町と河津町をつなぐトンネルだ。総工費10万3千16円（明治37年完成当時の金額）日本の道100選に昭和61年、登録有形文化財に平成10年、重要文化財に平成13年に登録されている。特に重要文化財には「わが国に現存する石造道路隧道の中で最大長の土木構造物で技術的に完成度が高く、明治後期を代表する隧道」として、道路隧道として全国初。トンネルの延長は446m、幅員3.5m、有効高3.5m、標高は708.4mです。技術的には「切り石巻工法」と言う手法で作られている。通り抜け初体験は非常に寒いので驚いた。水滴が垂れていて雰囲気たっぷり。トンネル内では灯りがともされているが、それだけでは十分でなく足下が見えない。壁や天井のあちこちから水滴が湧いて出て、道路脇に水がポトポト落ちる。車が通ると静寂を破り、トンネル内に物凄い音が響く。それでも車の灯りが点ると安心してしまふ。自然に歩行速度が速くなってしまふのは気のせいかな・・・

今日も「ヤッホー」「ヤッホー」の声がこだまして、歩け歩けの元気印が感じられる。あの名作「伊豆の踊り子」の舞台となった事は有名だ。「道がつづら折になって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい速さで麓から私を追ってきた」この杉の密林の少し開けた所に伊豆地方最大の杉とされる太郎杉がある。樹齢400年、樹高48m、目通り9.6m、両手を広げて幹まわりを測っている人達も居る。句碑に「郭公や雲の切れ目に太郎杉」と記されている。陽だまりを求めて三々五々。日陰は寒かった。夏、もう一度歩きたい。

身延線39ウオークスタート！！

甲府駅を起点に、終点富士駅迄の39駅歩き継ぎウオークがスタートしました。2月29日小雨の中、総勢108名でスタートです。スタート当日の甲府駅には「山梨日日新聞」の記者が取材に来ていました。翌、3月1日（月）付の紙面に、私達参加会員の写真と共に紹介記事が掲載されました。3月4日には「岳陽新聞」にも載っていました。ご覧になった方の中にはお友達やご自身が写っていたかも知れませんね。

又、「身延線サンキューウオークの歌」も制作されました。

作詞石川忠さん、作曲は増田敏幸さんです。先日の「伊豆の踊り子ウオーク」の車内で紹介されました。軽快なリズムの、歌いやすい歌です。いつの間にか耳に馴染んで、いつか皆で歌える日が来るかな、そんな感じのするメロディです。

♪甲斐の国から駿河へと 仲間とともに歩き出す♪



一般参加の動機

影山 隆司

草木も芽吹き始め、春を間近に感じ、身も心も自然と浮き浮きし始める時期になりました。家で体力の衰えを痛感している

この頃ですが、元々歩くのは好きなのでこの時期に入会の誘いもあったのですが、入会せず自分なりに気の向くままあちらこちらと歩いています。新聞で今回の企画の記事を見て参加してみる事にしました。歩く先々の名所・史跡等を見学しながらの社会勉強、人との会話、同じ世代の人達の頑張りにもふれながら、自分自身気分爽快・「自分の体は自分で守る」足は第二の心臓と言われている様に、心地よい汗と疲れを感じながら帰路につく中で「楽しく元気に無理のない歩き方」で、またこれからの高齢社会に向かって長生きするよう、次も是非参加できればと思います。最後に、あいにくの天気でしたが役員の方々の思いやりのあるサポートに感謝し、楽しい思い出の一頁を作ることが出来ました。有難うございました。

天城越えウオーク吟行

遠藤 富子

春の雲直立不動の太郎杉

春の泥天城峠の轍跡

ヤッホーの声つら抜きて春天城

佐野 和彦

料峭や歴史語らず太郎杉

日溜りに山葵を束ね老翁かな

点々と紅を点して叢椿

身延線サンキューウオーク吟行

佐野 和彦

春霖や人は石垣人は城

角なりの箱の句碑や春の鯉

町中の径に迷ふも春の昼



5月協会事務所の休業日

2日（日）・9日（日）・12日（水）・16日（日）・19日（水）

26日（水）・30日（日）

近くへ来た折には気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。（但し、休業日をお間違いなく！）

編集後記

毎号、多数の投稿有難う御座います。紙面の都合にて次号に掲載させていただく方もおります。御了承下さい。

広報担当一同